



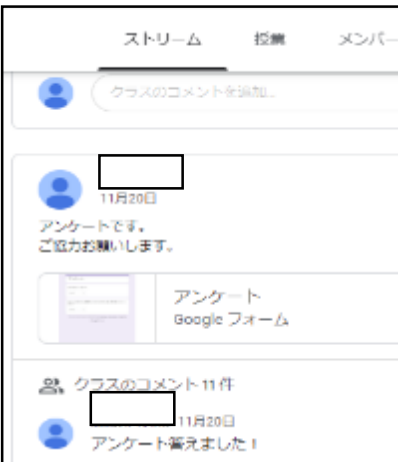
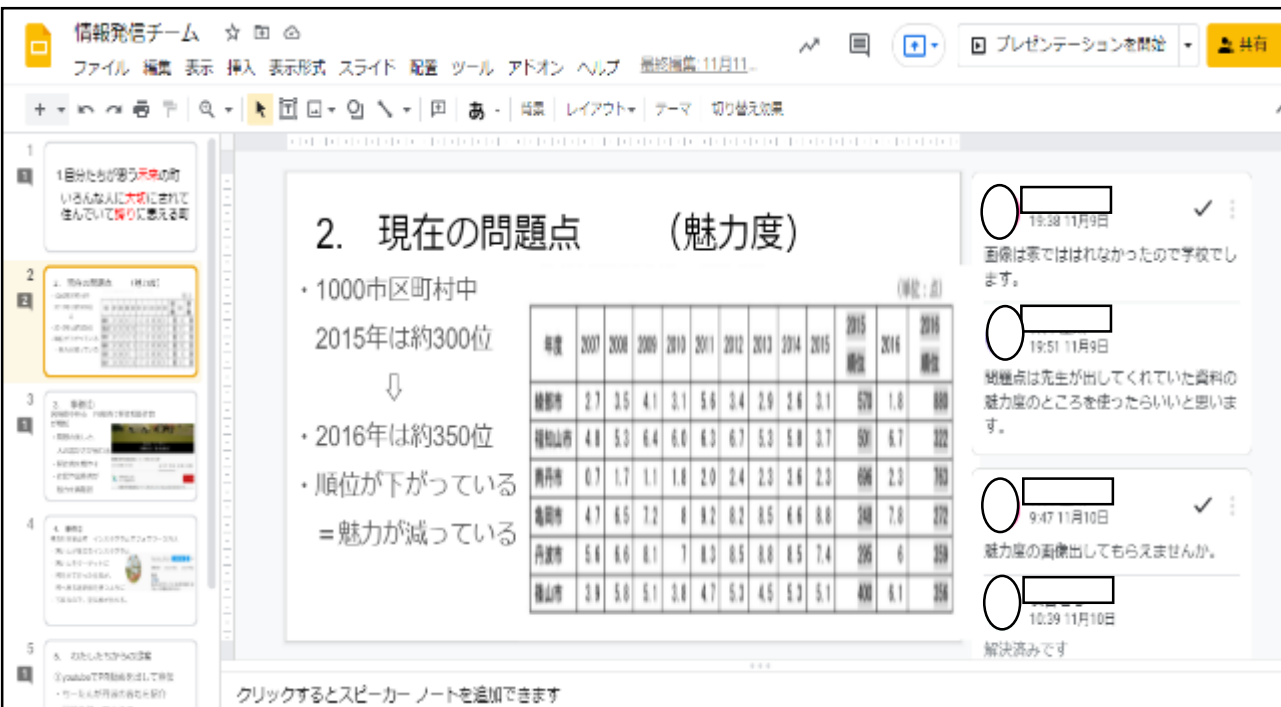
### 家庭でもオンラインで協働学習

<第6学年「町の未来についてプレゼンテーションしよう」>

「自分たちの町をもっとよくするためには」というテーマで子どもたちでグループを作り、学習を進めた。全6チームで作るプレゼンをオンラインで作成することで家でも学習が進められる環境にした。家でも学習が進められる環境になったことでコメント機能や「〇時から作ろうか」などの相談により、友だちとオンラインで協働学習を進めることができた。また、フォーム作成ツールで作成したアンケートを教育用クラウドサービスで呼びかけ、発表資料にしたり、現地にタブレットをもって出かけ、写真撮影するなど効果的な活用の場面も見られた。最後、発表の場として、地域への発表、他校への発表という形でプレゼンテーションする機会を多く設けた。

### ICT活用のポイント

- ・教育用クラウドサービスを普段から活用していることで子どもたちは自由な発想で、取り組みを進めることができる。
- ・スライドは初めての使用だったが、コメントなど、子どもから「この機能使ってもいい？」など尋ねることがあり、主体的な姿を自然と引き出すことができた。



▲撮影した写真を生かしたスライド

▲実際のスライド

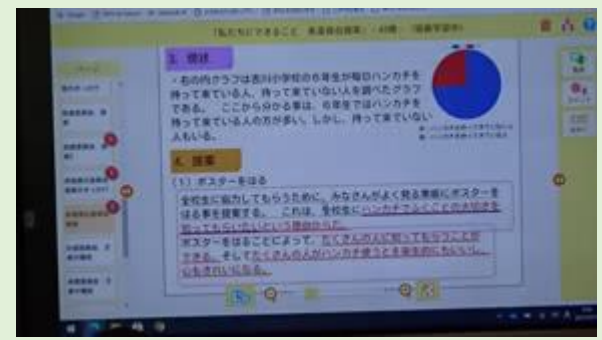




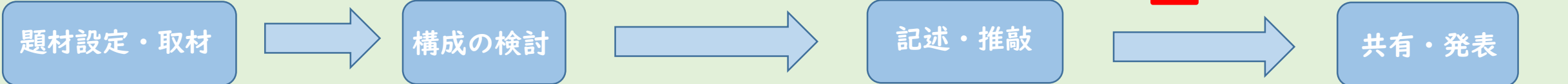
### 模造紙、広い場所など必要なし！他者評価を取り入れた主体的な協働学習！！

アプリ名 コラボノート(共同編集)

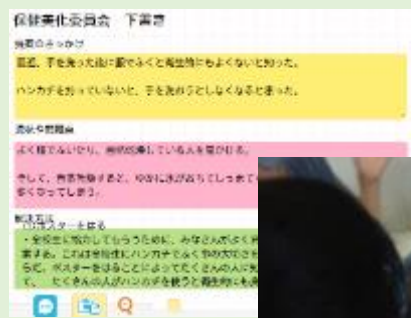
「コラボノート」を使うと、提案書をタブレットで同時に編集することができます。撮った写真を簡単に挿入したり、円グラフや棒グラフを作成したりすることができます。いつでも閲覧できる他のグループの内容や友だちからのコメントを取り入れて自主的に学習することができます。「発表」機能は、注目して欲しい点を強調することができます、プレゼンの時に最適です。



<国語科6年「私たちにできること」>



**ズームアップを用いた発表 (約15秒)**



**手も心もきれいに**  
6年、

**1. 提案のきっかけ**

- ・最近、手を洗った後に1番良いのがハンカチだと知った。
- ・ハンカチを持っていないと手をふけないの思った。

**2. 問題点**

- ・2019年8月20日から4月30日の東京! 女性でハンカチを使用している人は87人中約33%!
- ハンカチを使用しているのは33人中約33%!
- 87人中約8人の女性がハンカチを持っていて、ハンカチを使っているという事が分かる。

**3. 現状**

- ・右の円グラフは吉川小学校の6年生が毎日ハンカチを持って来ている人、持って来ていない人を調べたグラフである。ここから分かる事は、6年生ではハンカチを持って来ている人が多い。しかし、持って来ていない人もいます。

**4. 提案**

(1) ポスターを作る

全校生に協力してもらうために、みなさんがよく見る黒板にポスターをはる事を提案する。これは、全校生にハンカチでふくこの大切さを知ってもらいたいという理由からだ。

ポスターを作ることによって、たくさんの人に知ってもらうことができます。そしてたくさんの方がハンカチを使うと衛生的にもいいし、心もきれいになる。

同時編集にて作成

みんなのコメント>

1番目8年 1組	2021/07/16 09:33:37
	グラフを使って説明していたのが、分かりやすく良かったと思います！！
23番目8年 1組	2021/07/16 09:32:55
	グラフをつかって分かりやすく説明していたし、東京駅はこうだと自分たちのクラスはこうだとかかれてわかりやすかったです！
7番目8年 1組	2021/07/16 09:32:20
	グラフをたくさん使っていてすごく分かりやすかったです
25番目8年 1組	2021/07/16 09:32:18

「コメント」にて感想

- Formsのアンケートで情報収集
- インターネットで情報収集

## もしものことが起きたとき、どんなそなえが必要か調べよう

ジャストスマイル機能の画面管理により、効率的に調べものができる

インターネットを活用して、自然災害が起こった時、どのような行動をとることが大切かを調べ、それを文章にして友達に伝える学習を行いました。ジャストスマイルの画面管理機能により、良いページが見つかったら拡大し、紹介するなど必要な情報が集まりやすい環境を作ることができました。

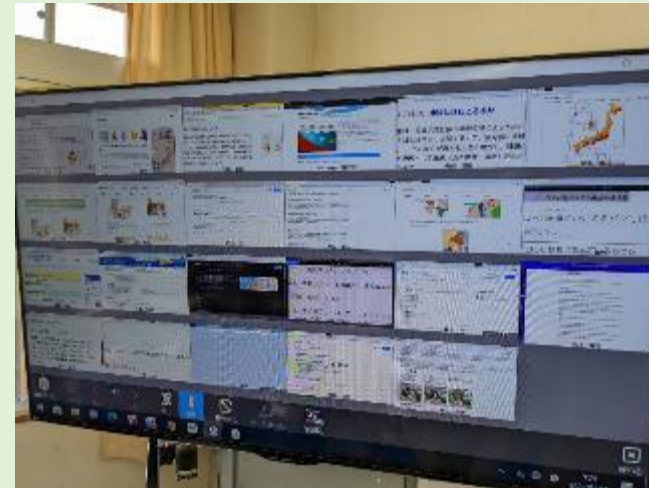
<第4学年 もしものときにそなえよう>

調べもの学習だけでなく、画面管理画面を使うことで、算数の問題への質問への回答や様々な操作方法の指導、やる気を向上させることができるなど、良いことが多いなと感じました。

見られることに抵抗がある児童もいるかもしれませんが、これを当たり前としてやり続けることで、自然と受け入れることができると思います。

### ICT活用のポイント

- ・画面管理機能は、児童が今どのようなものを調べているのかをすぐに把握することができます。また個別に必要なに応じて拡大することもできるため、読み方のわからない漢字や操作方法も、拡大機で共有でき、同じ困り感を持っている児童の助けとすることができた。
- ・一斉管理により、教師に見られているという気持ちもあり、素直に取り組むことができていました。



## 自分に合った調べ方・まとめ方で学びを広げる。

国語の単元(小学校4年)で季節の言葉探しをした。初めて聞く言葉やもっと知りたい言葉について、端末を使って調べ学習を行った。「写真が必要な場合はインターネット」、「言葉の意味だけ知りたい場合は辞書」などのように、ICTを活用する場面を自ら選択した。調べ方や調べたことをまとめる表現の仕方の個性化を図ることで、児童にあった学習ツールを使うことができ、児童にとって最適な学習の形をとることができた。

児童の思考・学習の流れ

教科書の季節の言葉について、調べたいものを決める

知的好奇心の向上

調べ学習(百科事典・国語辞典・インターネットなど)

主体的に学習に取り組む態度の育成

まとめる  
(プレゼン作成ツール・ノート)

春の七草の「ほとけのざ」はどんな植物なのだろう。

写真も合わせて調べたい。

前に調べた「秋の七草」とどのように違うのか比べてみたい。

スタディ・ログ  
(評価の資料として)



〈百科事典またはタブレットで調べる〉



〈調べたことをスライドにまとめる〉



### ICT活用のポイント

- ・「調べる=インターネット」ではなく、目的に応じて百科事典・国語辞典・タブレットを使い分けることで、焦点化して学習を進めることができる。
- ・調べたページをリーディングリストに追加し、いつでも見返すことができる状態にしておくことで効率よくたくさんの情報を調べることができる。

### 筆者の要旨を見つけ出そう！

5年生国語の「言葉の意味が分かること」で、要旨(筆者の考えの中心)を見つける際、教科書の文中で要旨だと思う部分のページの写真を撮り、写真に線や理由を書き込んでまとめました。個人で考えた後、ペアになって考えることで学びが深まりました。

<第5学年 国語 「言葉の意味が分かること」>

### ICT活用のポイント

- ・写真に撮ることで、自分の考えが一目で分かるようになる。
- ・友だちの考えとの比較にも役立てることができる。



発表している様子 (26秒)

## 中学校進学を意識してOffice系アプリの操作経験を積む

### アプリ名 Office系アプリ

プログラミング教育において、小中連携は非常に重要です。中学校の学習を意識して、GIGA端末の系統立った活用として、Office系アプリの操作経験は積極的に取り入れる必要があると考えます。小学生には難しい操作画面ではありますが、6年生であれば徐々に慣れていくことで操作が可能だと考えられます。国語科での成果物作成の際に、文章作成ソフトやプレゼンテーションソフトを用いたり、算数科の問題に表計算ソフトを用いたりする機会を、カリキュラムの中に位置づけ確実に体験を積みみたいところです。

<第6学年 国語 「表現の工夫をとらえて読み、それを生かして書こう」>

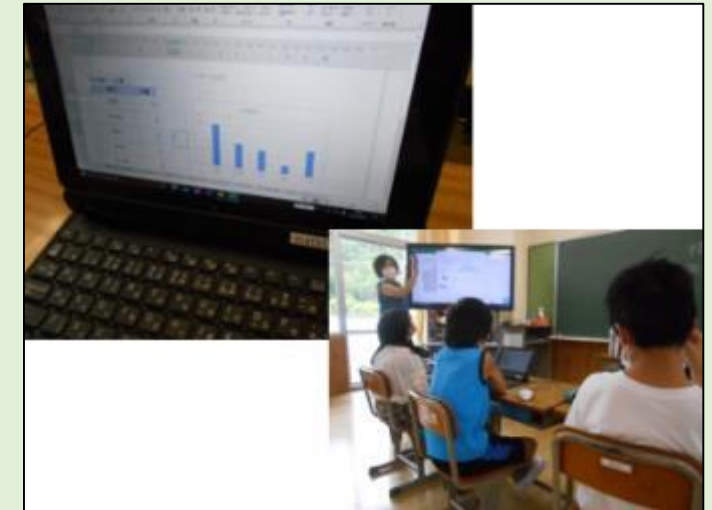
<第6学年 算数 「資料の調べ方」>

### ICT活用のポイント

- ・小学生が操作するには付いている機能が多すぎるため、操作画面が複雑である。クリックするポイントも非常に小さい。そのため、活動内容を焦点化できるように、あらかじめファイルの下準備をしておくこと必要である。
- ・テキストボックスを配置しておいたり、数値を入力する表を作成しておいたりして、ソフトの有用性を味わうことを大切にすることが良いと考える。



文章作成ソフトを用いて  
パンフレットを共同編集している様子



表計算ソフトを用いて  
資料からグラフを作成している様子

### 伝統文化を楽しむ様子を動画撮影する

6年生の国語科の「伝統文化を楽しもう」の単元で、狂言「柿山伏」を学習しました。その際、グループに分けて簡単な劇をして、撮影したものを互いに見合う活動をしました。撮り直しが可能なことにより何度も挑戦でき、また映らない場所で台本を表示させれば、覚えていない段階でも取り組むことができ、時間短縮になります。何より動画にすることで恥じらいを消して楽しむ様子がありました。

<第6学年 国語  
「伝統文化を楽しもう」>



グループ毎に撮影した動画を見合っている様子

### 平和学習の発表を動画で作成する

修学旅行での平和学習で感じ取ったことをもとに劇を作成しました。左の国語科の学習時での動画撮影経験を生かして撮影し、いくつかの動画をつなぎ合わせて映像を作成しました。撮影に慣れることで、撮る方向を工夫したり、様々な演出を考え出す児童の様子が見られました。

<第6学年 平和学習>

#### ICT活用のポイント

- ・難しいと思われる作業も、何度も経験させることによって、様々な工夫を考えるようになる。今回の動画をつなぎ合わせる操作は、担任が行ったが、時間があれば児童に経験させることで、子どもらしい発想や工夫が出たのではないかと思います。



作成した動画を体育館のスクリーンに映して発表している様子



## 実践を振り返り、次の成長につなげる

体育・音楽・国語の3教科において、自分の姿を動画で記録し振り返ることで、PDCAのサイクルで取り組んだ。

- 【体育】「縄跳び大会」に向けて、自分の目標を立てさせ、日々の練習の動画を撮影し、結果を記録・分析していくことで、成長の実感や目標の再考ができた。
- 【音楽】リコーダー練習をさせる上で、指使いが見えるように動画を撮影させ、教師の動画と比較しながら見させることで、音だけでなく視覚的にも自身のミスに気づかせ、改善につながった。
- 【国語】音読練習・宿題において、自身の音読を撮影させ、範読したものと比較させることで、読み違いや言葉の塊・区切りに気づき、修正することができた。(今回はしなかったが、姿勢などの指導にも活用できると感じた)

### ICT活用のポイント

- ・動画に映ること自体に抵抗感を感じる児童がいたり、顔が映ることに抵抗感を感じる児童がいるため、撮影する際の画角は
  - 【体育】・・・遠目で全身が映る  
正面でも横向きでもよい
  - 【音楽】・・・指だけが見えればよい
  - 【国語】・・・声だけが入っていればよい  
※映りたい子は映ってもOK  
と指定することで抵抗感を減らすとよい。

### <第6学年 縄跳び練習>



各自で目標を決めて技にチャレンジ

### <第6学年 リコーダー練習>



リコーダーの指使いを撮影